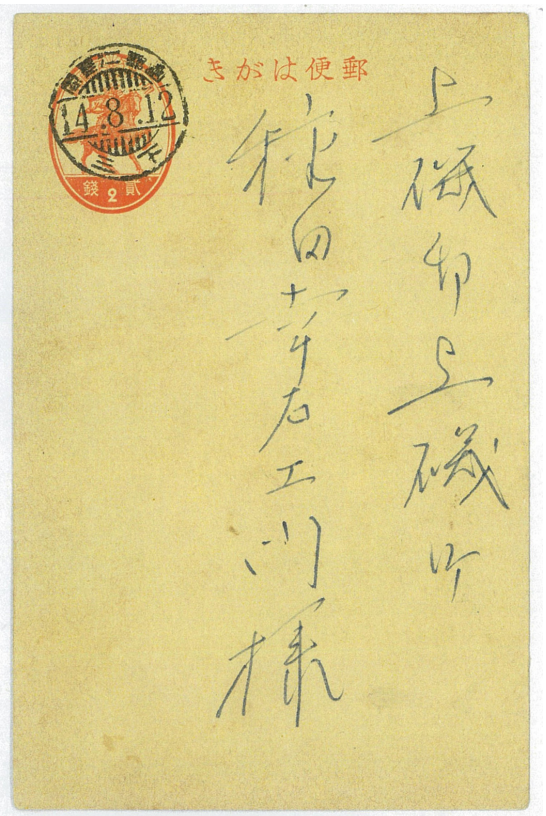
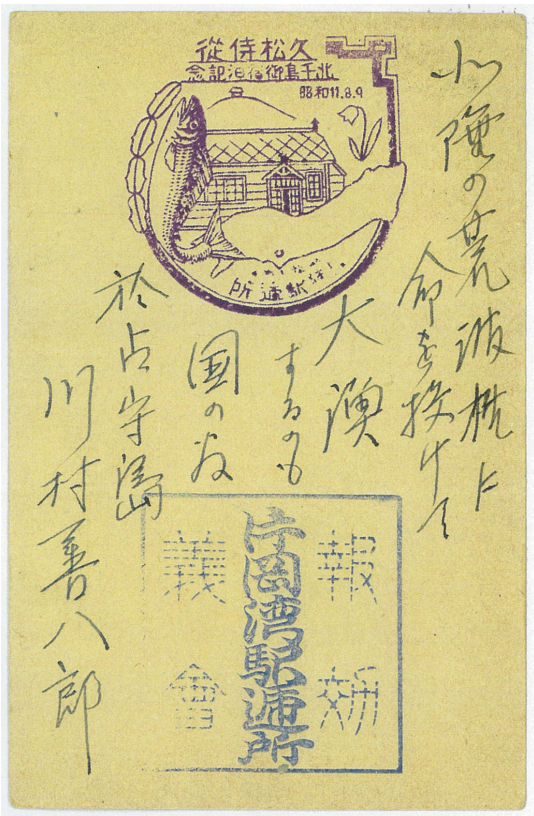
最北の島占守(シュムシュ)島からの手紙

戦前千島列島が日本領の時代、最北の島占守島は海峡を経るともうソ連領のカムチャカ半島である。幌筵（ホロムシロ）島は占守島の南隣りの島でここには函館郵便局の二つの分室擢鉢分室と粕原分室があった事は皆さんご存知であると思う。この分室は夏期において北洋漁業の従事者の為に昭和11年5月に設置され当分夏期だけの分室であった。このエンタイヤはなかなか市場に出ないもので小生もまだ未入手である。今回発表するのは灯台があるだけの島で冬を越すのには数人しか居ない島であり、今回のエンタイヤは昭和14年の8月に訪島した人が差し出したハガキで来島記念印年号が昭和11年になっているが気になるが久松侍従が来島した日で片岡湾駅逓所にあった印を押したものと考えている。宛先の上磯町は江差追分で有名な函館江差線の沿線にあり当時占守島からの航路は函館占守線と根室占守線がありこのハガキは函館まで運送された函館局で消印すべきであるが当時の国鉄の江差線に運ばれた車内で消印もれに気付き鉄郵印で押印されたと考えている。短いローカル線の鉄郵印は下りは大変少なく上りがほとんどで少ない使用例と思っている。

幌筵島の二つの分室は岸に接岸することができない為に沖合の船に小型船で郵袋を運んでいたと坂本木八郎氏著「北千島の郵便局物語」の本に記録があり占守島からの手紙を函館局に直接持っていたものと思われる。同書に占守島から札幌宛ハガキの写真があるが引受局名は不明だが分室印ではない。昭和16年6月20日差出の日付があり局名は不鮮明で判断できず16年6月26日の日付印となっている。函館局と推定すると占守島から6日かかっている事になる。このハガキは函館江差間の鉄郵印としてあるオークション誌で昭和時代に手に入れたものだったが裏面を見て驚いたが当時はそんな時代であった。

秋吉　誠二郎